

あなた…ごめんね。
私、ホントの幸せ
見つけちゃった♡

私…

本当の絶頂—しあわせ—

を知ってしまいました…。

ごめんなさい…

それは…

あなた以外の人となの…。

※この物語は、完全にフィクションです。
登場する人物・団体・名称・設定・事象は
その他いかなる事柄にも関係しては
全く架空であり、実在するものとは
一切関係ありません。
また、作中のいかなる表現におきましても、
差別的な表現などは一切ございません。

R18
18歳未満閲覧禁止

コミック
80p以上



ほんと…気温が高い
わけでもないのに

もわぁ♡

汗かく体質
どうにかならないかしら

もわぁ♡

汗臭く
ないかしら…

もわぁ♡

ああ…
大丈夫だよ

もん♡

どちらかといえば
ムラムラする
ニオイだよ…

あら…
こんな朝から…
だめよお…

ぴん



朝のこんな時間
だから興奮
するんじゃないか

4201p

しょうがないわね♥

もう
あなたったら…

あっ♥

んん

んん



あ...うん
気持ちいいよ

気持ちいいかい？

ああっ
でそう

あっ...
ちょ...

出るっ！

興奮してるから
もういきそうだ

あ...



今まで
私は女としての
快楽や絶頂を
然程経験したことが
ありませんでした

よそも…

そんなものを
求めることは
汚らわしい事だとさえ
思っていました

それに私たちは
お互い初めての相手で

こんな
感じだろうし…

べんっ

他の人とのセックスと
いうものを
全く知らなかったので

スキンシップの
延長くらいに
考えていたのでした

ただ本能的な
ものかもしれませんが

どこかでもっと
快感を得たいと
いつからか
感じていました

私は永丘涼子

ある会社の寮母を
しています
業務内容としては

共用部の
お掃除だったり



夕食の用意だったり



あとは

ちょっとした
雑用ですね



何でこんなこと仕事を
することになったかと
言いますと

夫は会社の総務課で
働いているのですが

人事からこのご時世で
なかなか寮母として

きてくれる人がいないから
私がやることになったのです



仕事をする前は
どんなに忙しいんだろうと
かなり緊張していたのですが

実際働いてみると
思っていたより
忙しくはなかったのです

んーっ



え？

おしりのところ
破けてるわよ？

細見くん！

あっ



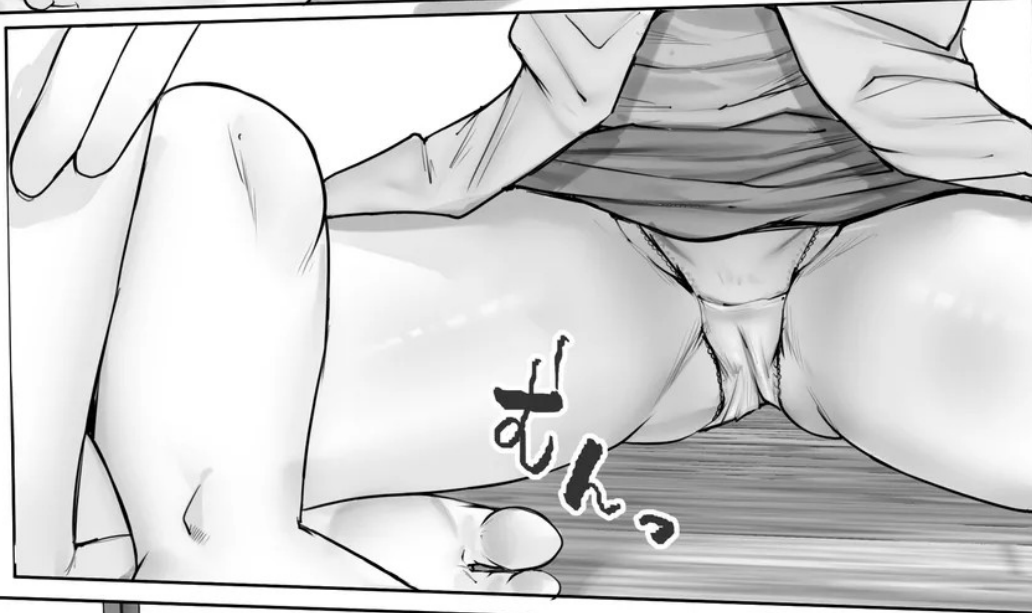
ほらほら
いくわよ？

遠慮は
いらないから

私の部屋に來なさい
縫ってあげるから

こんなところでって
いうのもなんだから







またなんか
あったら
言ってね…

は…はい

ありがとう
ございました

はあ〜♡

あんなので
かき回されるのって
どういう感じ
なんだろう…

なんか…

エッチな気分
になってきちゃった

あの子…
私が大学時代に
好きだった人に
似てるのよね

面影が
似てるのよね

余計に
ドキドキしちゃう♡

いつからか…

んっ♡

めん♡

ずっとムラムラ
していた
私には

はぁ♡

こ…こんな
厭らしい事…

変な性癖が
身について
しまいました

…誰かに
見られる前に

やめなきゃ…

でも…
こんなとこで
一人エッチしてる

エッチな自分を
想像したら…

それは—

ニギヤ
ニギヤ

ニギヤッ

気持ち良すぎてっ

いっくっ!!

ハゲキョッ

ハゲキョッ

誰かに見られるかも
しれないところで
自慰行為をすることです





あんなこと
するなら…



オナニーしてる…

涼子さん…
また…
あんなところで



僕なら…

あんな切ない
思いは
させないのに…



僕とセックス
してくれたら
いいのに…



ズボズボ
してあげられるのにつ

あっ…ああっ
涼子さんっ…
涼子さんっ…



何度だって
何度だって…
涼子さんが
トロトロになるまで



翌朝

おはよう
ございます

ああっ！
びっくりしたっ

ヒクッ

おはよう
ございますー

今日は
早いわねー

あつ彼女と
デートか
なんかかな？

って…

今の時代に
こんなこと言ったら
セクハラになるかなあ

昨日は…
ありがとう
ございました

ああっ
全然いいのよ
気にしないで

あ…あの…

ん？
どしたの？









ふおおおお…
これが…

間近でみる…
涼子さんのおっぱい…

ねえ…細見くん…?

あの…その…
私の恥ずかしい事
いつ頃から見たの?

モニ♡

ムニ♡



モニ♡

モニ…♡

それはそうと…
昨日のオナネタは
なんだったんですか?

あれから…
ずいぶん
我慢したんですけど
無理でした…



僕が入社してすぐに
目撃してしまいました

そんなすぐに…
見られちゃって
なんだ…

ええ…

ムニ♡



まだ朝なのに
もう独特な
匂いがしてる
エロい腋...

ああ... 朝の洗濯で
汗ばんだ
涼子さんの腋...

そ... そんなわけ...

ですよねえ W

そんなスケベなこと
考えるわけ
ないっすよねえ W

スシ
スシ
スシ
クリッ
クリッ
クリッ

ああ...
少し酸っぱいニオイ
たまらない...

ああ…涼子さんに
触れられるなんて
夢みたいですよ…

何言ってるの…

わっ
ーん

ギ
ッ
ギ
ッ

ぐ
り
ぐ
り

チンコに
少し何か触れただけで
いきそうですよ…

このコ…ほんと
おチンチン
おっきい…

いや…
キモいコト…
いわないで…

下着越しでも
わかつちゃう…

ん
ん





どっわあ..

おおお..
エロ臭そうな
マココ...

めちやくちや
蒸れ蒸れだ..

とっん!

なんか..
変な気持ち..

おお..
酸っぱいニオイに
シヨンベン臭..

汚いところ
ナメナメされて..
なんか感じて
きちゃった

たまらない..



私…こんなこと…
こんな変なこと…

るるっ…!

ひぎゅっ!

あれ?
どうしたんですか?
もしかして
いったんですか?



ああ…
だめっ…

いかっ…い…
イカされっ…

若くて激しい
舌遣いに…



でるっ!

それから頻繁に
動画をネタに
呼び出されて…



まあどっちでも
いいですw

ああ!
ちんぽきもっちいw
いくいく!



そんなわけ
ないでしょ…?

何やられ
てんだろ…

訳の分からない彼の性癖に
付き合わされました

そんな間にも
彼は別に私に
何かをするように

うっ！でる！

もやっ♡

求めてくるような
ことはありませんでした

ただ彼が求めてくるままに
服をはだけて乳房を晒したり

シクシク

くはも♡



ジュッ

びゃ

リクッ♡

性器を見せるだけです
彼が見抜きをするために…

普通に考えたら
気持ち悪いことですし

涼子さん…
なんでそんなに
エロいんですか…

涼子さんのこと
考えるだけで
パンツベッタベタ
ですよw



訴えるべき
事案なのだと思います

どろろ

何だったら
然るべき機関にでも

どろろ

ワキマンコ
エロすぎ…

でるっ!

でも…先にも言いましたが
このコは私が大学時代に
本当に好きだった人に

それどころか…
段々焦らされているような気になり
どんどんムラムラしてきて…

彼のモノを
一回だけ…私の中に
受け入れたなら

……

ああエロ…

涼子さん…
綺麗です…

顔立ちがすごく
似ていることもあって
どうしても無下には
できなかったのです

一日労働して
動き回った
涼子さんの
お疲れさマンコ

すっごいニオイ
してますよ…?

どんな感じなんだろう…なんて
厭らしい淫らな感情に
なってきました

それほど…

4マン♡

それほど執拗に私のあっちこっち…
それこそ私の臭くて汚いところ…

ヌイ…

恥ずかしい垢が
たまっていそうなところまで

チュル♡

カバ♡

んひうつ

ペロペロと舐めまわして

スリッパ

刺激だけされて
おあずけをくっっているような
そんな感じだったのです

彼自身のいきりたつて
パツンパツンになった
おチンポを

シヨシヨとごいている
ところを見せられているのです

ニチャジ♡

ね…ねえ
細見くん？

ワキ

ワキ

スコ

スコ

スコ

スコ

スコ



おチンチン
シコシコしてる
ただけだよ…

ふん♡

え？
はい？

ふん♡

ずっとクンクン
ナメナメして…

えわっ♡

そ…そうなんだ…

僕は涼子さんと
こういうことが
出来ているだけで
納得できていますよ

そんなので…
おチンチン
納得できてるの？

ふん♡

スーっ



え...?
勿論...
したいですね

ネロ



...セックス自体は
したくないの?

しゅり



その時はもうだいぶ
おマンコを散々ペロペロされ
頭に霧がかかっている感じがして

意識もぼやっとして...
訳が分からなくな
ってしまっていたのです

むわっ

いっ
いっ
♡



ふん...
そっか...

そんな状態で
つつい私からは決して
言っはいけない言葉を
口にしてしまったのです

...ねえ...?

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ズ
ッ



え...え?

ほんとですか?!

一回だけなら

いいのよ...?

だっ♡

だっ♡

だっ♡

本当に...
どうかしていたんだと
思います...

う...うん...

がっ...

ほんとに...
いいんですか?!

こんなこと...
絶対にダメなのに...





もっさり♡

本当に一回だけよ?

正直一回でも
快楽を味わってしまったら
取返しがつかなく
なってしまうのではないか
そう思いました

くっばあ♡

おマンコをペロペロと
舐められるだけで
あれほどドキドキと
してしまったのですから…

ムチ♡

ムチ♡

これが…
念願の

ムチ♡

ムチ♡

涼子さんの

ムチ♡

おマンコっ!

んあッ!

涼子さんの中
きもちいい!

スガッスガッ!!

保さんのと
全然ちがうっ…

ああっ！
めちやくちゃ
ぶっこじ…！

それでも…
こんな不埒な状態を
ずっと続けるわけには
いきませんし

一回のセックスだけで
納得して終わらせてくれるなら

なっ…！
何これ…
こんな…

セックスって
こんななの…？

それはもう
仕方がないかなと思って
受け入れたのです

決してこの子に
心を許した訳じゃ
ないんです…

涼子さんの中
ほんと…
やばいですよ

んん♡
むん♡

きつと…
大学時代に大好きだった
あの想い出の人に

ふん♡

ボクッ

ボクッ

ボクッ

んん♡
ふん♡
んん♡
んん♡

あー
きもっちえー

ボクッ

ボクッ

面影を…
重ねているだけなのです

涼子さんは
気持ちいいですか？

あつ…
あんまりね…
っっ…

ボクッ

ボクッ

んん♡

んん♡

ボクッ

むん♡



へえ...そうすかw

そうは言ってますけど
ほぼ抵抗なしで
ヌルッと奥まで
受け入れてくれて

さらに涼子さんの
おマンコから
エッチな汁が
ずっと出てますけどねw

気持ち悪い...

なに...
何言ってるの?!



一突きするたびに
風圧でエツロくさい
匂いが吹きあがって
きてますよ?

うつるさいわね...
きんきん
いきなりごよ...

夫のおチンチンでは
絶対に届かない
奥の気持ちいいとこ
トントニされてるっ

このこの
おチンチン...
メチャクチャ
遅しいわ...

メボッ

メボッ

ドクッ

ドクッ



ダメ…
ダメよっ…

夫以外のモノで
気持ちよくなっちゃ…

そう！
このチンチンは
玩具なのよ

大人のおもちや
なんか…
使ったことないけど

私は…そんな
淫らな人間
じゃない！

はず…



っ…強く
吸ったらダメッ

涼子さん！

出そうっ！
出そうです！

そっ外にっ！

外に出してっ！



ギリギリまで！

あぁっ出る
あぁ出るっ！

おおおお
出るっ！

出たあっ！！

な…なにこれ…
いつもより
すっごい
察出てる…



何このコ…
すっごい量…
まだ出てる…

涼子さんの中…
やっぱ…
めっちゃ気持ちいい…

涼子さんは
気持ち
よかったですか…？



っていうか
どこで
拭いてんのよ

ネエアンタ
キイテンノ？

あらあ…
気持ちよく
なかったですか…

悔しいなあ…
僕もまだまだ
ですね…



あ…ええ…
あ…あんまりね…

しよーじぎ…
やバかった…
私が人の妻じゃ
なかったら
もっと無茶苦茶に
なってたかも…

こ…こんなこと
ホントに
これつきりに
しないと…

ズルズル…
引っ張られたら
ダメなのよ…

ずわぁ

そうこれつきりに
しないと…

取り返しが
つかないことに
なっちゃうから…

ずわぁ♡

どうい理由が
あったとしても
許されることじゃ
ないんだから…

一回だけって言って
セックスまで
したんだから…

このまま
納得してくれてたら
いいんだけど…

あれから数日間

何事もなく
過ごしていました

むわぁ

あの日の約束を
守ってくれているんだなって

ザッパッ

ムチャ♡

細見くんも
一回だけという

むち♡

ぷりん♡

そう思っていた…
のですが…

はっ♡

しかし…細見くんは

ええっ?!

あの一回だけって
言っただけでしょ?!

また別の提案を
持ち掛けてきたのです

え?
そんなこと
言いました?

セックスが
一回だけって
言っただけじゃ
なかったですか?

数日間…何も言って
こなかったじゃない…?
わかったくれたんじゃ
なかったの…?

や…
やめなさい!

え? いえいえ
このおもちやが
届くまでの数日間
我慢してただけですよ

もう……会社……っ
いえっ……
警察に言うわっ！

僕としては
自分の身を守るために
それらを全部公に
することになります

あれらを見た人が
涼子さんの主張を
百パーセント
聞き入れますかね？

どうあれ……

そうなるって涼子さんも
無傷ではいられないと
思いますよ？

何だかんだ言っても
自己責任の社会
ですからね…

理由はどうあれ
ご自身で何度も
受け入れてくださった
わけですから…

それを
世間はどうか判断
するでしょうかね

そして…

あの数々の動画を
永丘さんが見たら
どう思いますかね…

事情を理解してくれた
としても…
心中穏やかでは
なくなるでしょうねえ

むわぁ♡



さあ…
どうしますか？
涼子さん…

僕は
どちらでも
いいですよ？



やっぱり…
バレたら…

涼子さんの
ムレムレマ○コ
味わっとこw

むっわあ♡

もお…

もんわり♡

ぽかぽか♡

ぽかぽか♡

玩具入れる前に
数日ぶりに…



ああ…
くっさ…

スケベなカス
めっちゃ
ついてるじゃ
ないですかw

もお…
汚いから
舐めるの
やめときなさいよ

わろん

んんん

んっ…

んんん

気持ちいい
ですか？w

なんだ…
涼子さん
なんだかんだで

スケベな行為
期待してたんじゃ
ないですかw

おおっ
ほとんど
抵抗なく

受け入れてくれてる
じゃないですかw
ヌルンヌルンw

期待なんか
してないわよ…



おおおお...

エッチな涼子さんに
めちゃくちゃ
似合ってますよw

言われるがまま...
こんなの着けたけど
どうなるのかしら...

もし...
保さんに
求められたら
どうしよう...

いうしかな
ないのかな

生理だからって

ムッ♡

ムッ♡

ムッ♡

ぷりん♡





なにこれ…?!



ううん…
なんでもないの
ごめんなさい

ちよっと…
なんかお腹が
痛くなっちゃって



あーふた

どうしたんだい?!

どうも…



もわぁ♡

なにか…薬でも
持ってこようか?

ええ…
大丈夫かい…?

びく♡



あのパイプ…

リモートで
操作できるやつ
だったのね…

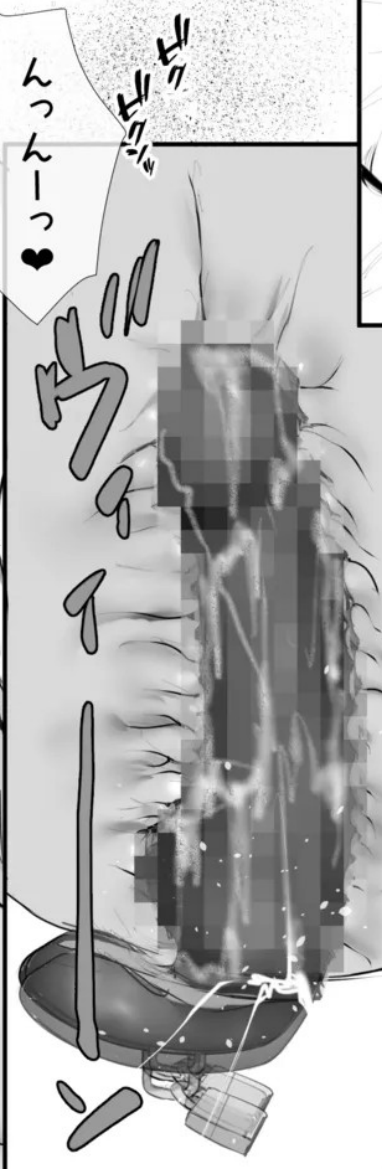
んんっ♡



あ…うん…
大丈夫…



またっ…
強くっ♡



んんっ♡



くいっ



本当に:
大丈夫かい?

あっ...

んんっ♡

これ:
ヤバイ:
なんか出そう...

ああああっ
やばいやばい
やばいやばい♡

出ちゃうっ♡





こんなこと
とめなきゃ...



もういい加減にして！

わかりました

よかった...

ぴん

あ返ってきた

もういい加減にして！

すぐ気づいたら
いいけど...

いい加減に
してっ



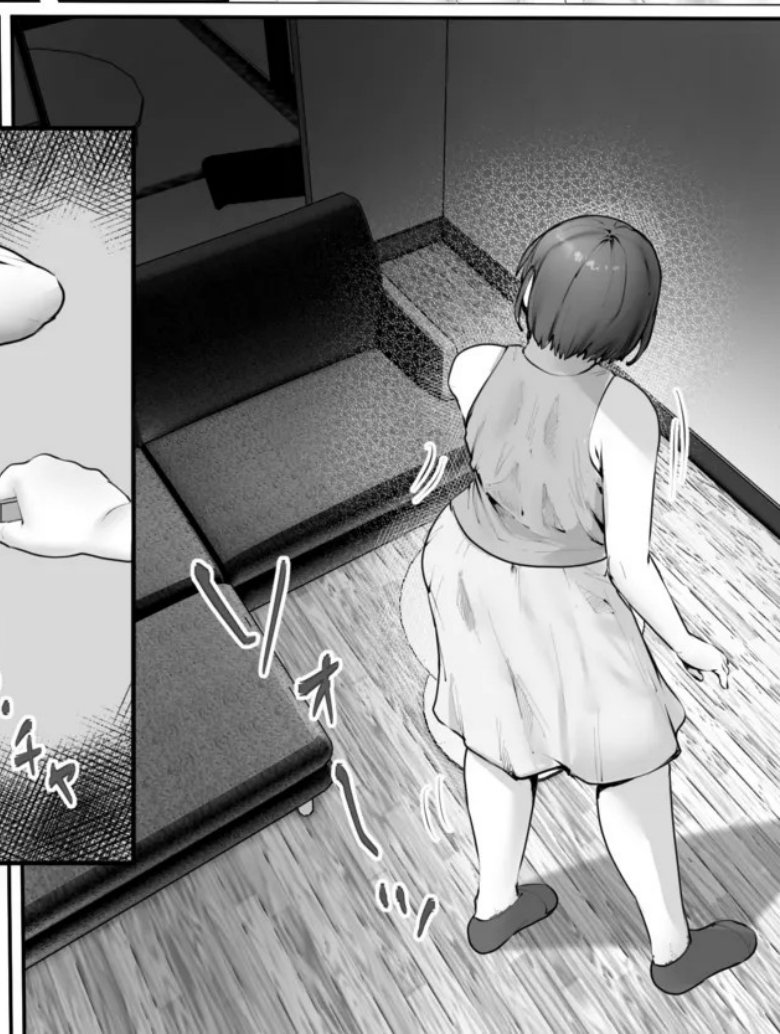
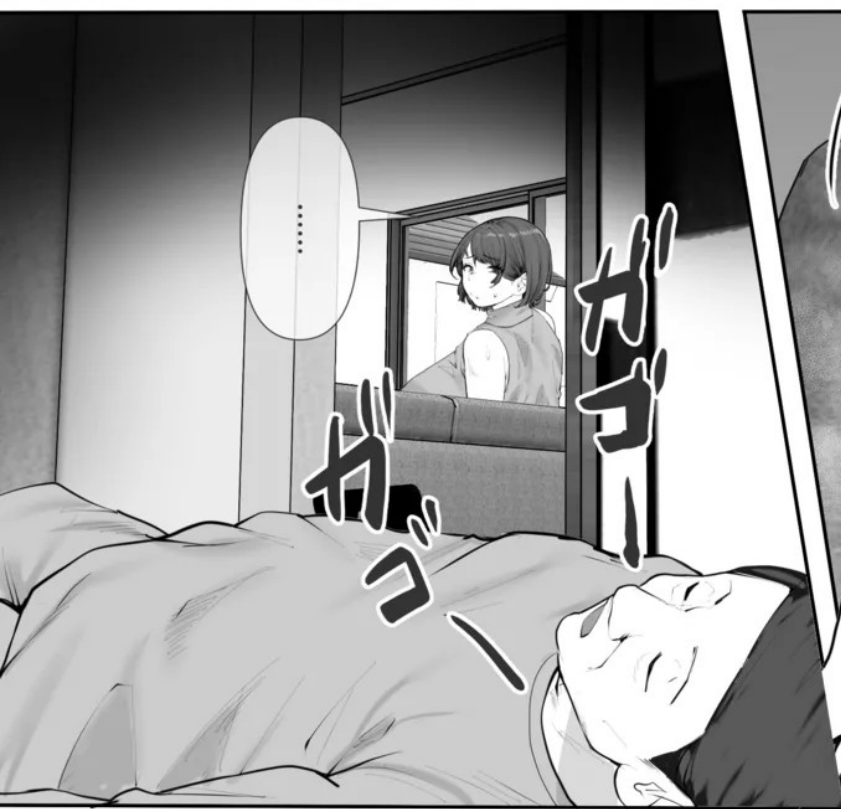
ほんとごめんね...

うん...
そうさせてもらう



胃がいれんか
なにかかな？
とりあえず
横になっときな？

ちょっと
落ち着いてきた...









あんなこと
されたら…
困るわ…

夫にばれたら
どうしてくれるのよ

ああ
すみません
あれは
もうやりません

えっほんと?!
でもなんで?

だって僕が
全然おもしろく
ないんで

え…

そんな理由なの…?

え?
そうですけど?

そうだそうだ
貞操帯外して
欲しいんでしょ?

っていうか
壊してでも
自分で外せば
よかったじゃ
ないですか

それでもなんだかんだ理由をつけてきてくれたってことは

な…何の期待よ…
あんな状態で
正常な判断が
出来なかっただけよ

何か期待しての
ことなんじゃ
ないんですか？

ム…ワ♡

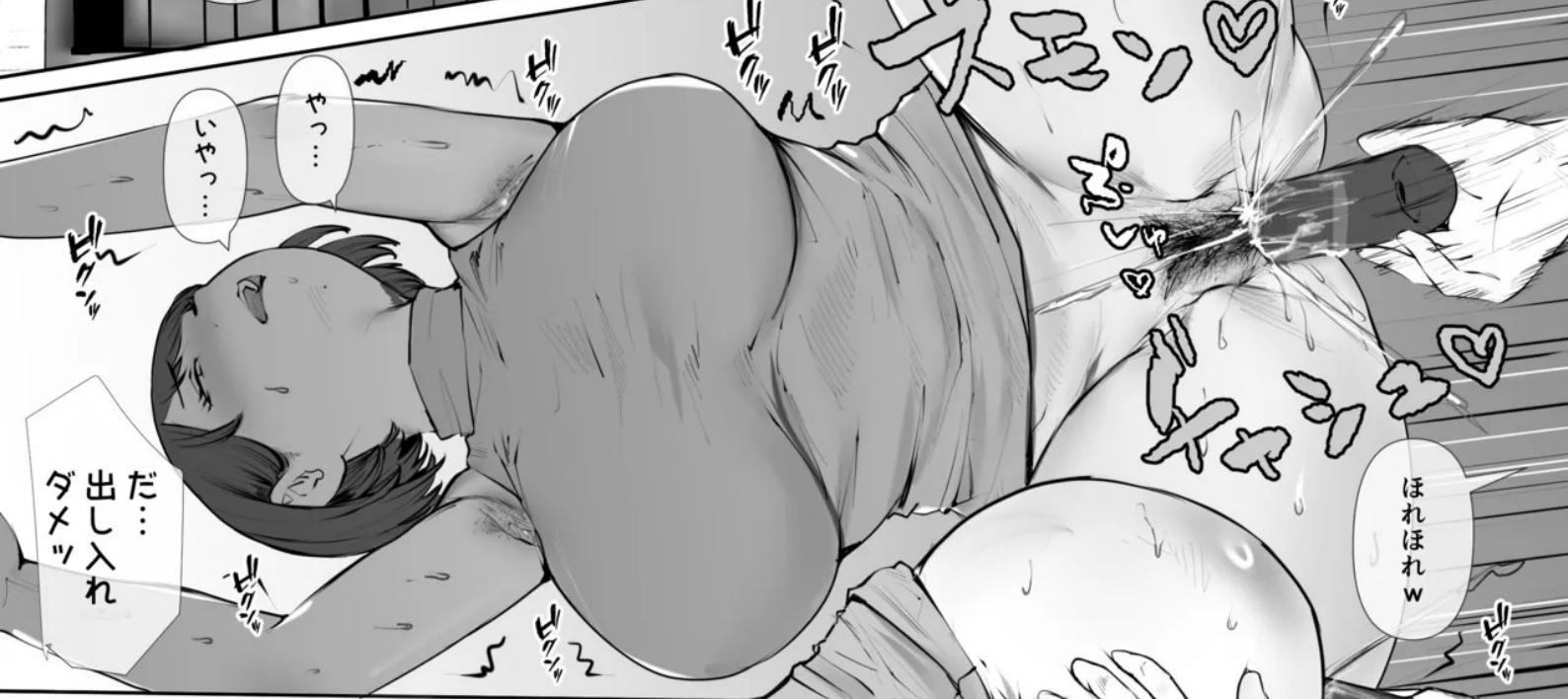
なるほど…

こんなに
ベタベタに
なるくらい
ですもんねw

いっ…ひっぱっ！









ムワッ♡

細見くんっ！
もうやめて！
そんな汚いところ
顔近いよ？！

こんなこと…
やめましょ？
お互いのために
ならないから！

スシッ
スシ

ああ本当に…
涼子さんのマ○コの
においエロすぎです
スラヌラして…
おいしそうな
涼子さんの
スケベ汁…

涼子さん？
僕はね…

あなたの足先から
頭のとっぺんまで
大好きなんです

もわあ♡

あなたから
出たものなら
なんだって
口にいらても
平気なんです

もしかして…
舐めるの…？

ぬるん

ほんとだめだよ？
お腹壊すよ？
やめて？

絶対にスイッチ
はいっちゃうっ！

マジで汚いから！
ほんとやだっ！

こんな状態で
いつもみたいに
激しくペロペロ
されたら…

ふあああ
あああ…

木っく、ロア

ドキ
ドキ
ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ

ドキ



あら…
今日はブラ
してるんですね

吹いちゃうほど
よかったですかw

ふふふ…

涼子さん…だいぶ
我慢してるんじゃない
ですか？

ハッリ

おっ





僕も気持ちよく
してほしいなあ



あゝ僕も
気持ちよく
になりたいなあ！



涼子さんだけ
気持ちいいの
ずるくないですか？

あなたが
勝手にしてるだけ
でしょ...？
知らないわよ...



涼子さんのにも
僕が早くいって

サラッと
終わった方が
いいでしょ？



ほんと！
マジでちよっと
だけでいいんで！

いやよっ！
なんでそんなこと
しないとい
けないのよ！



涼子さん...
ほんとちよっと！
ちよっとだけ
口でしごいて
もらえないですか？





ねえ、涼子さん
僕と浮気セックス
しましょうよ

これだけ
スケベなこと
しておいて

今更我慢して
どうなりますか？

欲望に忠実に
なりましょうよ

涼子さん
旦那さんの夜に
満たされてないから
あんなこと
繰り返して
いたんでしょ？

いやこれだけ
我慢したからこそ
気持ちいいですよ……？

ね？涼子さん

42ボ

42ボ

42ボ

たん

もや

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ

シキ



結局彼…細見くんの
太長い若くて力強い
おチンポを…



欲望に負けて
またもや受け入れて
しまったのです



正直あれほど
おマンコを
責められ続けて



性衝動で
どうにかなっていた
かもしれません



そして…
抵抗もしなかったのです

私は彼の提案を
否定も肯定も
しませんでした

涼子さん
マジで
綺麗です…

ああ…
涼子さんの膣中
ほんとにやばい…

何もしないで
そのまま部屋に
帰されていたら

私はー

びりびり

それほど…快楽に
抗えなくなっ
たのです

こんなにもスケベで
具合のいい名器の
涼子さんを

マッジで
きもちいい…

夫のおチンポで
解消しろよと
思われるかも
しれませんが

幾度となく
夫と性交してきたから
理解るのです

これは
最早罪でしょw

ロクに満足
させられない
なんて…



たとい一夜に何十回夫とセックスをしたとしてもこの火照りを鎮めることはできないことを…

僕が何度だってズボズボしてあげますからね！

そしてー
感じるのです

細見くん
これほどまでに
いいようにされても

失神するほど
までに！

そういう扱いを
心の奥底で自分自身
期待してしまっていることを

なんとかか上ってきた
まともな人間としての
坂道を転がり落ちるような
ことをしている中にも

ペロ出して
涼子さん

絶対嫌！

決して短くない時を
一緒に過ごしてきた
年月の重さもあります

もおー
つれないですね
涼子さんは

やっぱりまだ
夫に対しての
情はありました

そういつてる
僕が失神するかもw

まあいいや



そんなに簡単に
捨て去ることの
出来ないほどの
重さが…

それじゃ
マンコから
恋に落ちてもらって

自分から
ベロチューの
催促をしてくれる
ようになるまで
頑張るとしますかw

膚にして
あげますからねw

僕のチンポがないと
生きていられなく
なるように



それはパートナーに対して
若い時にいadakような
「好きかどうかわからない」とか
そんな不確かな感情ではなく

おw
潮吹いたw

ほんと
涼子さんったら
エロいんだからw

ハメ潮するほど
気持ちいいんですか

ち…違っ！

いやいやw
体は正直ですねえ

涼子さん
こんな体位やったこと
ないでしょ？

正常位かバックか
ベタベタの
セックスばかり
やってたんでしょ？

明確に夫に対して
「好きでなければいけない」
というようなある種の義務感
とともに私の中に
厳然とあったのです

ですが...それらの心の中の
自分なりの強い思いも

こんなセックス
だけでしかない
ような体勢w

涼子さん
どうですか？

旦那さんが
コスってくれないとこ
届いてますか？

彼の強い欲望のままに
動かされる
激しい腰つきの一往復ごとに

どんだけいい人
なんですか...w

ああしっかし
マンコまで
包容力あるとか...

私の心の内壁の
倫理観や道徳観と共に
削ぎ落されていくのも
感じていました

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ああマジで
好きです

毎日毎晩
ラブラブ交尾
しましょうよお

冗談言わないで!

バカなこと言わないで
そんなこと出来るわけ
ないでしょっ?!

冗談でこんなこと
いうわけないでしょ
僕は本気ですよ

涼子さん
マジで僕と
結婚して
くださいよ



そんなことより
涼子さん
気持ちいいんでしょう？

中がウネウネ
してますよ？w

全っ然…

気持ちよく
ないってえ…っん

激しくっ…ん
突かれてるから
勢いで声が
も…もれてる
だけよっ…んん♡

まだ認めませんかあ
ほんと涼子さんは
強情だなあw

何度
言わせるのよ

吐息交じりに
すっごい
エロい声で
鳴いてますけど



すつとぼけ
ちやってw

セ...セツクスって
こんなに...
気持ちいいもの
だったの...?

涼子さんの
下の口は素直に
表現してくれて
ますよw

とめどなく
本気汁分泌
させてくれて
ますよ

こんな
汚らわしくて
不埒なこと...
気持ちよくなっちゃう
ダメなのに...

いや、本当に
涼子さんと僕
相性良すぎでしょ

私は...
こんなにも
淫らで不徳な
人間...だったの？

私が気持ちいい
とこ...全部
シユコシユコ
されてるっ

いけないこと
なのに...



ほんと：
おしゃべりね：
はやくイッてよ：

マジで四六時中
涼子さんのこと
ばっかり
考えてますよ

ああ僕はほんとに
涼子さんと一緒に
なりたいんだなと
思います

これは
運命ですよ運命

そんなこと
ありえないでしょ！

ああ！涼子さんっ！
やばいやばいです！
いきそう！

バカなこと
言わないで：
私には夫がいるのよ

それがなんだって
いうんですか
出会うのが遅かった
だけじゃないですか

体の相性だって
こんなにあってるし





中に
出しますよ!

だめっ!
それだけは!

刻まれちゃう
私の中につつ
ダメダメダメ!



ああっやばい!
ダメなのに!
いっちゃう!!

いって
いっすか?!



うわぁっ!

うわぁっ!

でる!



うわぁっ! うわぁっ!

うわぁっ!

うわぁっ!

二度目を
許してしまうと
それ以降は

一度だけのセックスなら
過ちだった間違いだったと
言えたかもしれませんが

あっ♡
ダメっ♡

口でどれほど
拒否しようとも

其れは最早儀式的で
形式的なものに
なっていました

これ以上
突かないでっ♡

ダメっ♡
ほんとダメっ♡

心の底では徐々に
彼を許容し…それも
形を変えていきつつ
ありました

こんなことになっても
夫に対する罪悪感は
ずっとありました

で…でる!!

トボシッ
カバン

44

14

やはりまだ



あー
マジで最高ですw

夫のことを
愛していましたから：

そう思っているながらも
やめることは
出来ませんでした

寮母さん
顔色悪いですね
大丈夫ですか

あ…ええ
大丈夫よ

無理しないで
くださいね

誰にもバレなければ
安定的な生活は守れると
そう思っていました

ええ…
ありがとう…

バレなければ
このまま何事もなく
誰も傷つかずに済むのです

そう…バレさえしなければ…

むわぁ♡

ハハハハハハ♡
ハハハハハハ♡







